

学習評価の基本

山田 剛史 / Tsuyoshi YAMADA

愛媛大学 教育・学生支援機構
教育企画室(教育調査・分析部門長) / 准教授

E-mail: yamada@ehime-u.ac.jp
My Website: [山田剛史](#)

Google 検索



SPODフォーラム2013
2013年8月20日 (火) 15:30-17:30

1

本日の主な内容

ご自身のシラ
バスも眺めな
がらご参加く
ださい

1. 学習評価の目的
 2. 学習評価の原則
 3. 学習評価の方法
 4. よい試験を行うための留意点
 5. 様々な学習評価
- 参考文献



本日の到達目標

1. 学習評価の**原則**を説明することができる。
2. **形成的評価**と総括的評価の違いと重要性を説明できる。
3. 多様な学習評価の**方法**を知り、自らの授業で活用できる。

1. 学習評価の目的

なぜ学習の評価をするのでしょうか？
(学習評価の目的・意義とは？)

1. 学習評価の目的

- 学生の注目を集める。
- 学生の学習時間を制御する。
- 学生自身が復習をし、授業で学んだことを整理する。
- 学生が自分の理解度を確認する。
- 学生がさらに学びたいという動機を獲得する。（学生の学習を励ます）
- 当該学問分野で求められる文化、言語に関するスタンダードを学習する。
- 最終的な成績を評価する。
- 当該授業の質の保証（外部評価等への対応）

(Gibbs2003に加筆)

2. 学習評価の原則

1) 何を評価するのか？

- 評価は授業の到達目標に応じて行われる。
- 成績評価の項目と学生の到達目標を対応させると、学習を促進させる。
- 知識領域、態度領域、技能領域のそれぞれを測定するのに適した方法を用いる。

私の場合：到達目標と成績評価との関連の明示化

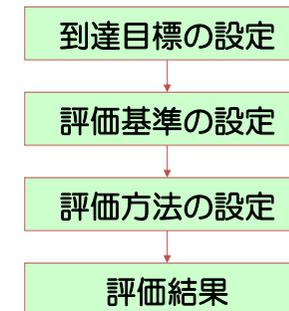
シラバスや授業で学生に明示！

例) 現代社会と教育「大学生の学びとアイデンティティ形成—大学生生活をサバイブする—」(山田)

評価対象		1.チェックテスト (6回)	2.リフレクションシート (8回)	3.グループワーク (2回)	4.最終レポート (1回)	5.ポートフォリオ (1回)	5.教員 Extra
達成目標	領域	15点	25点	35点	20点	5点	適宜
1.大学の歴史や意義・役割について説明することができる	知識	○ (15)	○ (10)			○	
2.大学生としての自覚を持ち、学生生活のビジョンを描くことができる	態度		○ (5)		○ (5)	○	
3.主体的・能動的に学ぶ姿勢を身につけることができる	態度		○ (5)	○ (10)	○ (5)	○	○
4.論理的思考力とそれを伝える表現力を身につけることができる	技能		○ (5)	○ (15)	○ (5)	○	○
5.他者の意見を聞き、協調性を身につけることができる	技能			○ (10)	○ (5)	○	○

2. 学習評価の原則

2) どのように評価するのか？



2. 学習評価の原則

3) いつ評価するのか？

● 診断的評価 (Diagnostic Assessment)

学習の前に、既に持っている知識を調べる評価。

● 形成的評価 (Formative Assessment)

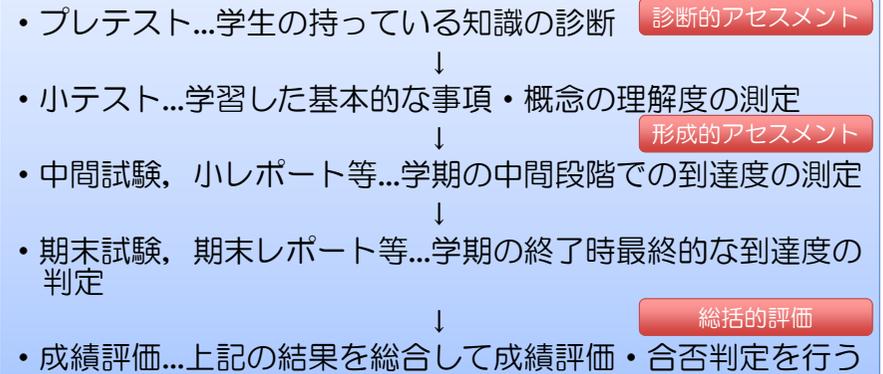
学習の途中で、学習状況の移り変わりを調べる小テストなどを繰り返し、学習の質的な管理を行う評価。学生と教員の双方向の評価。

● 総括的評価 (Summative Assessment)

学習の後に、学習内容をどこまで習得したのかを最終確認する評価。

2. 学習評価の原則

- 評価の準拠割合をシラバスに明示することが必要



2. 学習評価の原則

● 効果的な形成的評価におけるフィードバック

- できるだけ速やかに
- ポジティブで、励ます (エンカレッジング) コメントで
- 学習到達目標と関連づけて
- 評価基準とも関連づけて
- 自分の勉強に対する振り返りを促すように
- インフォーマルで、会話調の言葉を使って
- あなた自身の言葉で説明を

私の場合
(別添)

私の場合：入力負荷を減らす方法

■ 授業後の振り返り

無料・期限設定・集計表
などカスタマイズ自由。

REAS(リアルタイム評価支援システム)は調査票の作成、公開、リアルタイムな集計閲覧を全てWeb上で行うアンケート調査システム。

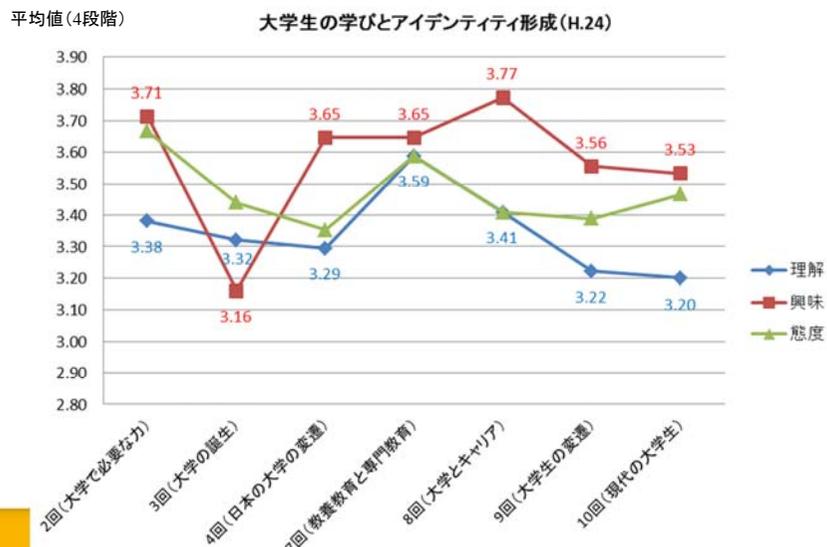


毎回、QRコード(右下図のようなもの)を資料に添付するので、授業後、携帯で読み取って、リンクをクリックすると質問が出て来るので、指定する期限内に最後まで回答して下さい。

回答期限を過ぎると入力
できなくなります！



私の場合：毎回の振り返りで学生の理解度・興味・受講態度を把握



私の場合：コメントへのフィードバック方法

■コミュニケーション・ツール (tsuyoxi) の活用

リフレクションから良かった感想を抽出して、コメントを付けて翌週みんなにフィードバックします(A4で2枚)。学生の成果を共有するとともに、他の学生が何を考えて(学んで)いるのかを知ることが出来ます。素朴な疑問・質問にも応えます。ベストコメント(毎回3名)には加点します。

tsuyoxi

■■■■現代大学論 第9講(6/6)のコメントより■■■■
 ---今週のtsuyoxiのベストコメント!---

★★★今の大学生は、周りの友人や大学という組織、社会との関わりについて、無関心だとは思。70年代からこの傾向があったことは、今回の授業で知って驚いたが、今、学生は無関心なりに大学での勉強や、自分の興味を通して、何かかわりがないか、さぐっているような気がする。(1年生だからそう思うのかもしれない)中間テストの勉強会を開けば、みんな自然と集まって、一緒に勉強するし、自分達の興味のある分野について、ささやかだが何か話し合ったり、学生が開く、そういった催しに参加したいという雰囲気もある。こういう意味で、今は、かわりをさぐっているのだと思う。(Sさん、医)

つ：まさにアイデンティティの探求だね。それにしてもとてもいいコミュニティを(おそらくそう大きくはないながらも)創っているね。それが学年が上がっていても続けてほしいね。まとめると、ラーニング・コミュニティを創ってアイデンティティを探求する。これが大学生のあるべき姿だと思うね。

3. 学習評価の方法

- 皆さんは授業でどのような成績評価方法を使用していますか?
- それらの評価方法で何を測定しようとしていますか?

3. 学習評価の方法

どのような評価をするのか?

テスト	学習目的
論述試験	知識, 理解, 問題解決能力
口頭試験	知識, 理解, 問題解決能力
客観試験	国家試験, 統一試験など (○×式, 多肢選択式)
シミュレーション	問題解決能力
実地試験	問題解決能力, 技能, 態度, 習慣, 創造力, 応用力
観察記録法	態度, 習慣, 技能, 表現力, 応用力
論文・レポート	知識, 解析力, 叙述力, 文献調査力, 創造力

テスト(客観試験)のメリット

- ・ 学習した範囲全体から問題が出せる
- ・ 採点が容易で、採点の信頼度が高い

テストのデメリット

- ・ 理解の深さの程度が見られない
- ・ 推理, 表現, 論述などの能力が見られない

学習目的に応じた評価方法を選択

4. よい試験を行うための留意点

1) よい試験のための条件

- 妥当性・・・学習の到達度を測るのにその問題は適切か？
- 信頼性・・・同じ集団に対して同じ試験をくり返し行っても同じ結果が得られるか？
- 客観性・・・誰が測っても一定の結果が計測できるか？
- 効率性・・・評価が容易で、経済的にも時間的にも実用的であるか？

4. よい試験を行うための留意点

2) 試験問題を作るときの留意点

- 問題はコースの目標に応じて作られる。
 - 知識を重視するのか？思考力を重視するのか？
 - 概念の理解、原理の応用、解釈、事象の分析など複数の目標をもつなら目標に応じた内容と形式を用意する。
- 記述式の問題は採点が主観的になりやすい。
 - 問題が大きすぎると答える方向や内容がまちまちになる。
 - 例) 「新憲法について述べよ」→「新憲法について①その制定前後の事情、②旧憲法との比較、③残された問題点について述べよ」

4. よい試験を行うための留意点

3) 試験を実施する際の条件

- 問題を出す範囲を事前に学生に伝える。
- 授業の目標にあげた事柄は必ず問題に含める。
- 学習した範囲全体をカバーするように問題を作る。
- 授業の目標としたレベルを中心に難易度の異なるレベルの問題を出す。

4. よい試験を行うための留意点

4) 学生の自主学習を促すための工夫

例えば、次のような行為は学生の自主学習を促します。

- 過去あるいは実施予定の試験問題の配布
- 学生が自分で手書き作成したA4版メモ1枚の持ち込み許可
- 予想問題の作成を宿題に課す

テストを実施する前のチェックリスト

- 事前に学生に予告したとおりの形式になっているか？
- 学生が授業全体で獲得した知識やスキルによって解答することが可能な問題になっているか？
- 問題の分量は適当か？
- 問題文の指示はあいまいでないか？誤解をまねかないか？
- 解答欄のスペース欄は適当か？
- 問題の難易度は適切に分布しているか？
- やさしい問題から難しい問題へと配置されているか？
- 問題自体が取り組む気持ちにさせる興味深いものになっているか？

問いかけ

- 学生の知識以外の側面（技能や態度）を評価するためにはどのような方法が考えられるでしょうか？

5. 様々な学習評価

ルーブリック評価

- いくつかの評価項目について、各グレードの典型となる言葉を評価基準として記述し、学習者の行動を評価する。
- 通常、表の形で示され、グレードの判定結果を評価項目ごとに記入する。
- 学習プロセスの中の場面を切り出し、それぞれに評価項目を立てる。

ルーブリック評価の仕組み

安全で適切に化学実験を行う

課題の説明

基準	素晴らしい!	惜しい, もう少し!	もっと頑張ろう
準備	すべての適切な材料が整っており、レポートに記述されている。	すべての材料が出されているが、すべてが記述されているわけではない。もしくは不足していて途中で補充しなくてはならない。	必要な材料がなく、レポートへの記述もない。大きな手抜きがある。
手順	手順は根拠とともによく考えられており、適切である。	手順はもっと効率よく工夫することが可能であるが、不適切ではない。	不適切な手順である。
安全性			
効率			
⋮			

説明・評価基準

ルーブリック評価の実例（プレゼンテーション）

基準	よくできました（A）	もう少し（B）	改善の必要あり（C）
声量	教室全体に声が届いており、最初から最後まで、内容がよく聞き取れる。	教室全体に声が届いているが、時々、内容が聞き取れないことがある。	発表全体を通して、教室全体に声が届かず、教室の端では内容がよく聞き取れない。
スピード	説明するスピードは適切で、聞き取りやすい。	説明するスピードは、おおむね適切だったが、一部、聞き取りにくいところがあった。	説明するスピードは、遅すぎるか、速すぎるかのどちらかであり、全て聞き取りにくい。
内容	わかりやすい順序で内容が構成されており、聞き手が理解しやすい。重要な点も強調されている。	内容の順序については、改善の余地が若干あり、聞き手が理解しにくい部分があるところがある。重要な点もやや不明瞭である。	内容の順序がバラバラであり、聞き手が理解に苦しむ重要な点がどこなのかかわからない。
熱意	やる気、人を動かす熱意も十分表現されている。	やる気がないわけではないが、人を動かすほどの熱意にまでは表現されていない。	やる気が表現されていない。淡々と発表をこなしているように見える。
質疑応答	質問を正確に理解しており、応答的を射ている。応答は誠意を持ったものになっており、やりとりが建設的である。	質問を正確に理解しているが、応答的を射ていない。応答は誠意を持ったものになっており、やりとりが建設的である。	質問を正確に理解していないために、応答的を射ていない。応答が攻撃的であり、質問者や聞き手に不愉快な思いをさせている。

愛媛大学版『大学での学び入門』（2013）より一部抜粋

25

ルーブリック評価の利点

1. どの程度まで努力すればどのような評価が得られるのか明示されており、学生自身の行動指針が明確になっている。
2. 学生が自らの学習活動を評価できる。
3. 結果だけではなく、プロセスも評価できる。
4. 採点開始から終了まで評価がぶれない。
5. 異なる人が評価しても同じ結果が得られる。
6. 教員による評価と学生による評価を比較検討できる。
7. 採点時間を短縮できるうえに、詳細なフィードバックが可能である。

26

5. 様々な学習評価

ピア評価

- 学生同士で行う評価
- どのようなメリット、デメリットがあるでしょうか？

自己評価

- 学生自身で行う評価
- どのようなメリット、デメリットがあるでしょうか？

27

5. 様々な学習評価

eラーニング評価

- オンライン上で行う評価
(例 オンラインでクイズに答え、その合否がすぐにわかる教材など)
- どのようなメリット、デメリットがあるでしょうか？

28

まとめ

～多面的な評価から学修時間の増加・確保へ～

- 評価は、学びの「結果を判定」するためだけでなく、学びの「過程を促進」するためのものでもある。
- 「アウトカム」評価のみならず「プロセス」評価を積極的に活用。
- 「成績」評価（主に知識面）と「到達度」評価（主に態度・技能面）をバランスよく評価。
- 授業時間の学習と予復習の授業時間外学習（両者を合わせて「学修」）のバランスを図ることで（単位の実質化），学修時間の増加・確保を。

参考文献

- 中央教育審議会大学分科会大学教育部会（2012）「予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ」（審議まとめ）
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1319183.htm
- Deborah L. Ulrich, Kellie J. Glendon 著、高島尚美訳（2002）『看護教育におけるグループ学習のすすめ方』（医学書院）
- 池田輝政・戸田山和久・近田政博・中井俊樹（2000）『成長するティップス先生』（玉川大学出版会）
- MARIYN H. OERMANN, KATHILEEN B. GABERSON 著、舟島なをみ監訳（2001）『看護学教育における講義・演習・実習の評価』（医学書院）
- 中井俊樹・鳥居朋子・藤井都百編（2013）『大学のIR Q&A』（玉川大学出版会）
- 佐藤浩章編（2010）『大学教員のための授業方法とデザイン』（玉川大学出版会）
- 徳島大学大学教育委員会（2002）『FD推進ハンドブック』